

かわさき区の宝物シート

宝物No.	かわさきこう・うんが 川崎港・運河				
エリア	臨海部全域	シーズン	通年		
	—	日時			
目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他				
宝物定義	<input checked="" type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代的な文化的なもの <input checked="" type="checkbox"/> 港めぐり <input type="checkbox"/> 歴史的なもの <input type="checkbox"/> 人物				
所在地	川崎区臨海部				
問い合わせ	川崎市港湾局				
TEL	044-200-3049				
FAX	044-200-3981				
E-mail	58shomu@city.kawasaki.jp				
URL	http://www.city.kawasaki.jp/58/58kikaku/home/top.html (川崎市港湾局)				
交通					
	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;">  </div> <div style="flex: 0.5; border-left: 1px solid black; padding-left: 5px;"> <p style="text-align: center;">マップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ①京浜運河 ②境運河 ③白石運河 ④田辺運河 ⑤南渡田運河 ⑥浅野運河 ⑦池上運河 ⑧桜堀運河 ⑨入江崎運河 ⑩水江運河 ⑪塩浜運河 ⑫夜光運河 ⑬千鳥運河 ⑭大師運河 ⑮末広運河 ⑯多摩運河 </div> </div>				
基礎情報					
<p>■川崎港は埋め立てによって造成されてきた港で、川崎市が管理する公共ふ頭と、企業が所有する専用ふ頭からなっている。今や国際的な貿易港となった川崎港では、石油や鉄鉱石、食品などが輸出入されている。</p> <p>■名前のついた運河だけでも16あり、産業を結ぶ重要な交通網として臨海部の企業・工場群を支えている。</p>					
由来・エピソード					
<p>■明治時代末から昭和時代前期にかけて、浅野総一郎、渋沢栄一、安田善次郎らによって浅野町・大川町・南渡田町・扇町などの海面埋立事業が進められると、湾岸を利用する大企業が臨海部に進出し、専用埠頭を設け、原材料を輸移入し製品を輸移出するという総合的な港湾機能が確立し、京浜工場地帯の中核が形成されていった。</p> <p>■神奈川県も昭和12年(1937)以降、現在の水江町、夜光町の一部の造成を行ったが、第二次大戦後の戦災復興事業が優先され、昭和20年(1945)12月に事業は中止された。ところが戦後の食糧事情が深刻化してくると、昭和22年(1947)には国が食料や肥料の輸入を企画。その荷揚場を川崎市千鳥町に建設した。これが川崎港における公共埠頭の始まりであった。</p> <p>■昭和25年(1950)、港湾法の制定により港湾の開発・運営に関する業務はすべて港湾のある地域で行うことになった。翌年に川崎市が港湾管理者となり、名実ともに川崎港の誕生となった。また特定重要港湾にも指定された。</p> <p>■その後の川崎港開発は、昭和31年(1956)4月の港湾審議会で決定された計画に基づいて行われた。浮島町や千鳥町の造成や、石油コンビナートや公共埠頭、防波堤などの建設が行われ、港としての形態が整えられてきた。近年では東京湾岸道路や東京湾アクアラインが開通したことによって、川崎港への交通アクセスは飛躍的な向上をとげている。</p>					
補足・その他			関連シート		
<p>■川崎臨海部の埋め立て工事の際に、海底の土砂を掘削するドリルの刃先として使用された「カッターヘッド」が、東亜建設工業から川崎市へ寄贈され、現在は川崎市市民ミュージアム(中原区)の中庭に展示されている。このカッターヘッドは、事業に参画した浚渫船「六郷丸」のポンプ先端部分に取り付けられていたものである。</p> <p>■平成6年(1994)1月にベトナム・ダナン港と友好港の提携がなされ、研修生の相互派遣による技術支援や情報交換などが行われている。</p>			<p>(19-1)「川崎漁業ゆかりの地」碑</p> <p>(19-2)川崎マリエン</p> <p>(19-3)川崎の海苔づくり資料室</p> <p>(28-1)港湾施設(埋立地)</p>		